

「未来医療研究人材養成拠点形成事業」における工程表

| | |
|---------|-------------------|
| 申請担当大学名 | 三重大学 |
| 連携大学名 | 無し |
| 事業名 | 三重地域総合診療網の全国・世界発信 |

① 本事業終了後の達成目標

| | 本事業終了後の達成目標 |
|------|---|
| 達成目標 | <p>本補助事業によって、総合診療に係る教育・研修や研究のための体制が構築され、そこで教員や指導医そして研究者がさらに育成されて、それによって実施される総合診療教育・研究内容の一層の充実・発展が達成される。具体的な内容は以下のとおりである。</p> <p>① 三重大学に新たに地域医療学講座が設立され、三重大学や既存の三重大学の各地域医療学講座（寄附講座）と協働で、総合診療医育成のための卒前医学教育や卒後臨床研修のカリキュラム（セミナー、プログラム等も含む）の開発、及びそれを運営・実施できる教員や指導医を育成するコース（「アカデミックGP教育コース」等）が開発され、また総合診療の研究を実施するために必要なコース（「総合診療のためのPhDコース」等）が開発され、当講座にてそれが実施される。また、教員等はカリキュラムや各コースの適宜改良と運営を担当している。</p> <p>② 「アカデミックGP教育コース」にしたがって、三重大学や既存の三重大学の各地域医療学講座（寄附講座）と協働で、総合診療医育成のための卒前医学教育や卒後臨床研修（セミナー、プログラムも含む）を実施できる人材を育成できる。</p> <p>③ 地域で診療する臨床医が総合診療医育成の指導医になるために、「地域での総合診療指導医養成セミナー」（e-learningを含む）が開発され、それが実施されている。</p> <p>④ 総合診療医がチーム医療の要となるため、卒前医学教育および卒後臨床研修における多職種連携教育カリキュラム「多職種協働のチーム医療プログラム」が開発され、それが実施されている。また、より効果的な多職種連携のために多職種連携に係る調査も実施されている。</p> <p>⑤ 地域住民のニーズに合致する医療・保健・福祉を明らかにする調査、地域住民の健康にかかわる事項の調査、またその他の総合診療に係る調査を実施している。</p> <p>⑥ 三重大学全学そして他大学と協働して「総合診療のためのPhDコース」が実施され、リサーチマインドを持った総合診療医が育成されている。</p> <p>⑦ 女性総合診療医が効果的な診療や教育・研究が実施できるように、研修医療施設に関連する保育施設（24時間保育、病児保育を含む）の設置、またはテレビ会議システム等を使用して在宅で教育・研修が受けられるなど、環境を整備する。</p> <p>⑧ 「海外総合診療医チャレンジコース」が開発されて、海外の発展途上国等でも医療、保健や医学教育などの支援ができる総合診療医を育成、またその人材派遣のための仕組みが構成されている。さらに派遣終了時の日本における就職（研修）先を常に確保することで、海外での総合診療医の活動が容易になっている。これは、医師の総合診療への参入魅力化に寄与している。</p> |

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

| | | H25年度 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | H29年度 |
|-------------------------|--------|---|--|--|--|--|
| インプット・プロセス（投入、入力、活動、行動） | 定量的なもの | ①地域医療学講座を設置。教育担当常勤教員を1名、事務補佐員4名を雇用 | ①地域医療学講座に教育担当常勤教員2-3名、研究担当常勤教員1名、非常勤1名、また事務補佐約2名雇用 | ①地域医療学講座に教育担当常勤教員2-3名、研究担当常勤教員1-2名、また事務補佐約2名雇用 | ①地域医療学講座に教育担当常勤教員2-3名、研究担当常勤教員1-2名、また事務補佐約2名雇用 | ①地域医療学講座に教育担当常勤教員2-3名、研究担当常勤教員1-2名、また事務補佐約2名雇用 |
| | 定性的なもの | ④「多職種協働のチーム医療プログラム」の開発と実施、および多職種連携に係る調査 ⑤総合診療にかかわる研究の実施 ⑥「総合診療のためのPhDコース」の実施 ⑦女性総合診療医が活動しやすいような環境の整備 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」の開発と一部実施 | ②「アカデミックGP教育コース」の実施 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」の開発と実施 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」の開発と実施、および多職種連携に係る調査 ⑤総合診療にかかわる研究の実施 ⑥「総合診療のためのPhDコース」の実施 ⑦女性総合診療医が活動しやすいような環境の整備 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」の開発と実施 | ②「アカデミックGP教育コース」の実施 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」の開発と実施 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」の開発と実施、および多職種連携に係る調査 ⑤総合診療にかかわる研究の実施 ⑥「総合診療のためのPhDコース」の実施 ⑦女性総合診療医が活動しやすいような環境の整備 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」の開発と実施 | ②「アカデミックGP教育コース」の実施 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」の開発と実施 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」の開発と実施、および多職種連携に係る調査 ⑤総合診療にかかわる研究の実施 ⑥「総合診療のためのPhDコース」の実施 ⑦女性総合診療医が活動しやすいような環境の整備 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」の開発と実施 | ②「アカデミックGP教育コース」の実施 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」の開発と実施 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」の開発と実施、および多職種連携に係る調査 ⑤総合診療にかかわる研究の実施 ⑥「総合診療のためのPhDコース」の実施 ⑦女性総合診療医が活動しやすいような環境の整備 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」の開発と実施 |

| | | | | | | |
|-------------------|--------|--|--|--|--|--|
| アウトプット (結果、出力) | 定量的なもの | ④「多職種協働のチーム医療プログラム」受入人数:110名 ⑥「総合診療のためのPhDコース」受入人数:1名 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」受入(受講も含む)人数:6名 | ②「アカデミックGP教育コース」受入人数:7名 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」受入人数:60名 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」受入人数:415名 ⑥「総合診療のためのPhDコース」受入人数:4名 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」受入(受講も含む)人数:10名 | ②「アカデミックGP教育コース」受入人数:7名 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」受入人数:60名 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」受入人数:420名 ⑥「総合診療のためのPhDコース」受入人数:5名 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」受入(受講も含む)人数:10名 | ②「アカデミックGP教育コース」受入人数:7名 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」受入人数:60名 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」受入人数:435名 ⑥「総合診療のためのPhDコース」受入人数:5名 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」受入(受講も含む)人数:10名 | ②「アカデミックGP教育コース」受入人数:7名 ③「地域での総合診療指導医養成セミナー」受入人数:60名 ④「多職種協働のチーム医療プログラム」受入人数:440名 ⑥「総合診療のためのPhDコース」受入人数:5名 ⑧「海外総合診療医チャレンジコース」受入(受講も含む)人数:10名 |
| | 定性的なもの | ④総合診療にかかわる研究の発表と論文文化 ⑦女性総合診療医の診療や教育・研究活動の増加 | ①総合診療医育成のための教育・研修カリキュラムの開発。総合診療教育・研究に必要なコースの開発と運営 ④総合診療にかかわる研究の発表と論文文化 | ①総合診療医育成のための教育・研修カリキュラムの開発。総合診療教育・研究に必要なコースの開発と運営 ④総合診療にかかわる研究の発表と論文文化 | ①総合診療医育成のための教育・研修カリキュラムの開発。総合診療教育・研究に必要なコースの開発と運営 ④総合診療にかかわる研究の発表と論文文化 | ①総合診療医育成のための教育・研修カリキュラムの開発。総合診療教育・研究に必要なコースの開発と運営 ④総合診療にかかわる研究の発表と論文文化 |
| アウトカム (成果、効果) | 定量的なもの | | | | | |
| | 定性的なもの | ①④⑤⑥⑦今後の総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の育成の基盤形成とその実際の育成。総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の増加 ⑤⑥⑦総合診療の概念や教育等の基盤形成 ①④⑦⑧総合診療医の増加 ⑧海外でも通用する総合診療医の増加 | ①②③④⑥⑦今後の総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の育成の基盤形成とその実際の育成 ①②③④⑥⑦総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の増加 ①②③④⑦総合診療医の増加 ④⑦すべての職種の多職種連携機能の向上 ⑤⑥⑦総合診療の概念や教育等の基盤形成 ⑧海外でも通用する総合診療医の増加 | ①②③④⑥⑦今後の総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の育成の基盤形成とその実際の育成 ①②③④⑥⑦総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の増加 ①②③④⑦総合診療医の増加 ④⑦すべての職種の多職種連携機能の向上 ⑤⑥⑦総合診療の概念や教育等の基盤形成 ⑧海外でも通用する総合診療医の増加 | ①②③④⑥⑦今後の総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の育成の基盤形成とその実際の育成 ①②③④⑥⑦総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の増加 ①②③④⑦総合診療医の増加 ④⑦すべての職種の多職種連携機能の向上 ⑤⑥⑦総合診療の概念や教育等の基盤形成 ⑧海外でも通用する総合診療医の増加 | ①②③④⑥⑦今後の総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の育成の基盤形成とその実際の育成 ①②③④⑥⑦総合診療にかかわる教員・指導医・研究者の増加 ①②③④⑦総合診療医の増加 ④⑦すべての職種の多職種連携機能の向上 ⑤⑥⑦総合診療の概念や教育等の基盤形成 ⑧海外でも通用する総合診療医の増加 |

③ 推進委員会所見に対する対応方針

| 要望事項 | 内容 | 対応方針 |
|------|--|---|
| ① | 医療のパラダイムシフトの契機となるよう、従来の固定観念にとらわれることなく新たな発想で事業を実行すること。 | 三重大学ではすでに三重県市町村からの寄附を受けていくつかの地域で活躍できる総合診療に係る講座が設立され、この土地での学生や研修医の総合診療教育・研修、そして総合診療にかかわる研究に取り組んでいる。この事業は、その次のパラダイムとして、単に総合診療医の増加を目標とするのではなく、その総合診療医になるために学生や研修医を教育・指導する人材(教員、指導医等)の育成、また総合診療の分野を堅強にするために総合診療基盤や地域にかかわる研究を実施できる人材の育成、さらにはそれに必要なシステム構築などを目指している。 |
| ② | 事業期間中のアウトプット、アウトカムを年度ごとに明確にし、達成状況の工程管理を行うこと。 | 事業期間のアウトプットとアウトカムを年度ごとに明記した。そのため達成状況の工程管理がしやすくなっている。 |
| ③ | 事業の実施にあたっては、一部の教員や一部の組織のみで実施するのではなく、学長・学部長等のリーダーシップのもと、全学的な実施体制で行うこと。また、事業の責任体制を明確にすること。 | 事業責任者は教務委員長であり、また、学長や医学系研究科長と緊密な連携をとれる。したがって本事業は他の部局も含む全学的な実施体制が可能となっている。さらに三重県内の複数の他大学(他職種の教育機関)からの協力も得ている。なお本事業において各活動に責任者を指定して、責任体制を明確にしている。 |
| ④ | 事業期間終了後も各大学において事業を継続されることを念頭に、具体的な補助期間終了後の事業継続の方針・考え方について検討すること。 | 事業期間終了後も、教員の人件費や物品費、旅費等については、現在ある4つの市町村寄附講座の合計予算から捻出することが可能と考える。また、本事業によってより多くの総合診療医が育成されれば、さらに多くの総合診療にかかわる寄附講座を設立できる可能性がある。 |
| ⑤ | 成果や効果は可能な限り可視化したうえで社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、導入に至る経緯や実現するためのノウハウ、留意点、ポイント等についても情報発信すること。 | 事業の内容や背景など、その詳細については、ホームページやパンフレットによって紹介、逐次アップデートする。いくつかのコースやセミナーについては公開し、e-learningの形式も採用する。なお、当事業で得られた成果は、学会発表や学術論文、雑誌などにて逐次、情報発信する。 |

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

| 推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項) | 対応方針 |
|--|---|
| 地域指導者へのサポートは講義のみではなく、総合的なサポートがあるとより効果的。 | 「地域での総合診療指導医養成セミナー」は、講義のみならず、ワークショップ形式なども取り入れる予定です。なお、講義についてはe-learning形式も採用する予定です。 |
| 三重県全域を対象としているが、学生が実践的に方法論を学ぶ上で課題や問題意識を焦点化できるように、指導することが必要。 | 学生等の教育・研修においては三重県全域の医療施設等を使用しますが、学部各学年の教育においては、その科目の初期において課題や問題意識を焦点化できるような講義やディスカッション、また、終盤の報告会等においてそれらの課題や問題意識をどのように解決・対処できるか、大学において議論することとなります。 |
| 国際協力は必要であり、発展途上国への医師派遣により、グローバルな視点をもつ総合診療医の養成が可能だと思われる。しかしながら、それらの医師に本邦の高齢者医療への関心と診療面での貢献が育成できるかどうかは疑問があり、「海外総合診療医チャレンジコース」は本事業の趣旨からして再考が必要。 | 国際医療・保健に必要なノウハウ等は、活動する場の違いはあるにしても、総合診療や地域医療に必要なノウハウと密接に関連している、その教育や研究においても共通点が多くあります。また、各々の分野に興味を持っている人材も多く重複していることが経験されております。特に学生の過半数が海外で実習を受ける三重大学医学部においては、総合診療に興味を持つ若手が、卒後のキャリアプランに海外での活躍が含まれていることが少なくありません。専門診療科における海外での研究の重要性と同様に、総合診療においても、海外での活躍は、地域医療の持つ閉塞感を緩和し、総合診療への興味を誘導に大きく貢献すると考えられます。上記の意味から、「海外総合診療医チャレンジコース」の意義は非常に大きいと考えております。 |